

5. 夫の親・妻の親からの経済的援助

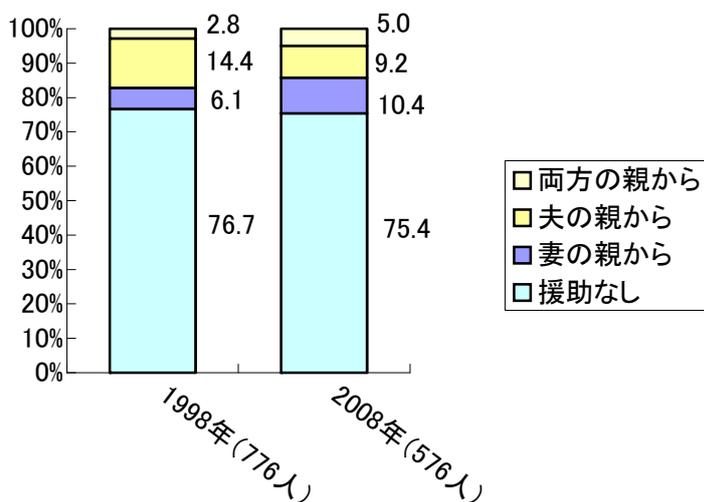
(1) 妻の親からの経済的援助が増加

経済環境が大きく好転しない中、確かなサポートを得られる先として、親の存在は改めて注目されつつある。ここでは、結婚している世帯を対象に、夫の親・妻の親からの経済的援助について、1998年に25～35歳だった女性（妻）と、2008年に25～35歳だった女性（妻）の間で比較を行った。

親からの経済的援助の実態をみると、10年前も現在も、経済的援助を受けていない世帯が約4分の3を占めていることがわかる（図表5-1）。しかし、経済的援助を受けている世帯に注目すると、変化が進んでいることが確認できる。

1998年と2008年の間で、夫の親のみから援助を受けている世帯が減少している一方で（14.4%→9.2%）、妻の親から援助を受けている世帯が増加していることがわかる（6.1%→10.4%）。また、両方の親から援助を受けている世帯も増加している（2.8%→5.0%）。経済的な面に関しては、従来は夫の親とのつながりが中心だったが、近年では妻の親とのつながりも重みを増しており、夫の親とのつながりと同等ないしそれ以上に強いものになっていることがうかがえる。なお、経済的な援助の金額をみると、全体的に減少していることがわかる（図表5-2）。

図表 5-1 結婚している世帯における、親からの経済的援助の有無



図表 5-2 援助金額の変化

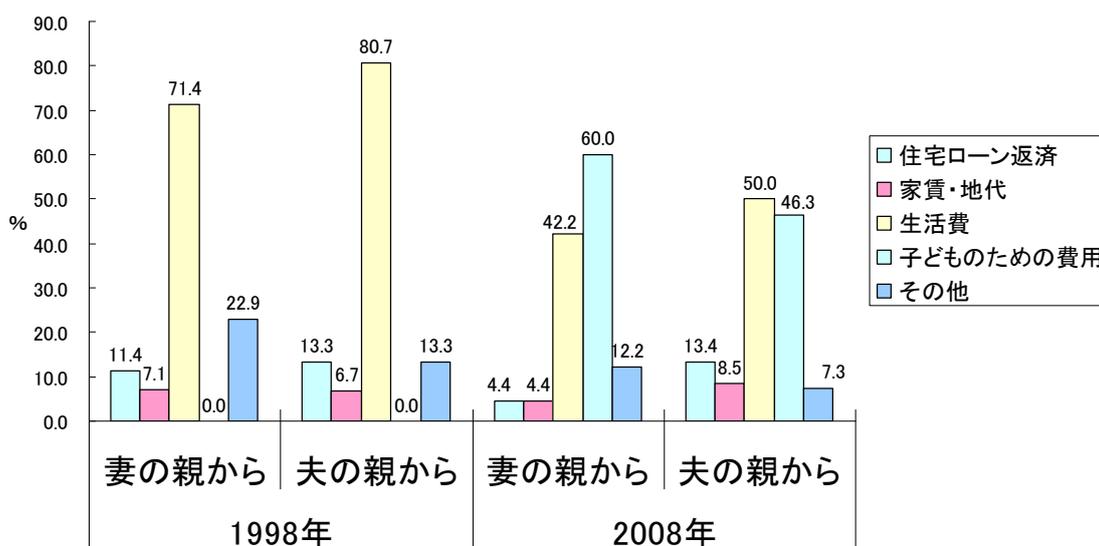
	単位:万円/月		
	妻の親から	夫の親から	両方の親から
1998年	4.7	5.4	6.0
2008年	3.1	4.3	4.6

(2) 夫の親からの援助は生活費へ、妻の親からの援助は子どものための支出へ

次に、夫・妻それぞれの親から受けた経済的援助を、具体的にどのような支出に使っているのかを調べた（図表 5-3、複数回答）。1998 年・2008 年いずれの結果も、親からの援助が主に「生活費」または「子どものための費用（教育費、服、その他の費用など）」に充てられていたことが示されている（1998 年の調査では「子どものための費用」という選択肢は設けられていなかった）。

続けて、夫の親からの援助と妻の親からの援助で、使いみちに違いがあるのかをみると、1998 年の結果ではそれほど大きな違いがなかったが、2008 年の結果では、夫の親からの援助は「住宅ローン返済」、「家賃・地代」、「生活費」に使っている割合がやや大きく、妻の親からの援助は「子どものための費用」の割合が大きくなっている。妻と妻の親の経済的なつながりにとって、子どもの存在が重要な結節点の一つになっていることがうかがえる。

図表 5-3 親からの援助の使いみち（複数回答）



* 1998 年の調査では、「子どものための費用」という選択肢が設けられていなかったため、「0.0」と表示されている。